

【臨床・研究】

当院における腹腔鏡下虫垂切除術の成績

わか	つき	とし	ろう	すげ	ざわ	けん	やま	だ	よし	のり
若	月	俊	郎	菅	澤	健	山	田	敬	教
おお	たに		ゆう	くら	よし	かず	お	かじ	たに	しん
大	谷		裕	倉	吉	和	夫	梶	谷	真
こう	の	きく	ひろ							
河	野	菊	弘							

キーワード：虫垂炎手術，腹腔鏡下虫垂切除術，虫垂断端処理，手術時期，術後合併症

要 旨

当院で2011/1月から2015/12月に腹腔鏡下虫垂切除術が146例あり，単孔式腹腔鏡下虫垂切除は125例（85.6%）に施行されている。この5年間で，腹腔鏡下虫垂切除術の占める割合は，2011年55.8%から2015年76.5%と増加し，腹腔鏡下虫垂切除術症例中の単孔式の比率はやや減少し，2015年72.2%であった。炎症程度は単純性炎症が71.2%を占めており，手術時期として，緊急手術を施行した症例が125例，手術時間中央値は61分，出血量中央値は0 ml，開腹移行は1例であった。術後在院日数中央値は6（1～61）日であり，術後合併症を6例（4.1%）に認めた。当院ではより確実に，安全に虫垂断端処理をするため2014年ごろから腹腔外で行うように変更し，2015年には82%の症例を腹腔外で施行している。周術期管理は，主治医任せであったが，医療の標準化を図るため，2015年6月からクリニカルパスを導入した。

はじめに

腹腔鏡下虫垂切除術は，1983年 Semm¹⁾によって初めて報告されて以来，数多くの報告が認められている。その後1992年単孔式腹腔鏡下虫垂切除術（単孔式）が Pelosi²⁾らにより報告されている。一方わが国では，1991年から腹腔鏡下虫垂切除術が導入され，単孔式は2009年以降積極的に行われ

るようになってきている。当院では2008年腹腔鏡下虫垂切除術を導入し，単孔式は2010年から開始している。当院で施行している腹腔鏡下虫垂切除術の現状について報告する。

対象と方法

当院で2011/1月から2015/12月に虫垂炎の診断で虫垂切除を受けた患者は245名であり，そのうち腹腔鏡下虫垂切除術が146（59.6%）例あり，開腹虫垂切除術は99例であった。腹腔鏡下虫垂切除術146例中単孔式は125例（85.6%）に施行され

Toshiro WAKATSUKI et al.

松江市立病院消化器外科

連絡先：〒690-8509 松江市乃白町32-1

松江市立病院消化器外科